

河川功労者に 五ヶ瀬川流域 ネットワーク

日本河川協会 30日、東京で表彰式

公益社団法人日本河川協会（会長・虫明功臣東京大学名誉教授）の平成30年河川功労者に、延岡市の特定非営利活動法人「五ヶ瀬川流域ネットワーク」（土井裕子理事長）が選ばれた。30日に東京都千代田区の砂防会館別館シエーンパツハ・サボードで表彰式が行われる。同表彰は、昭和24年に創設され、河川文化の発展、水防活動、河川愛護活動に功労のあった個人・団体を都道府県知事や国交省などが推薦し、同協会が表彰者・団体を決めている。今年には全国で個人50、団体39の受賞が決まり、同協会が4月23日に発表した。県内からは、高鍋自然愛好会が選ばれた。

五ヶ瀬川流域ネットワーク（事務局・延岡市牧町のリバーバル五ヶ瀬川

内）は、平成14年に創立以来、五ヶ瀬川流域の環境保全活動や水生生物調査、カヌースクール、川の安全利用講習などの活動を行い、地域住民の河川環境保護意識の定着、子供たちの健全育成の推進に貢献した。

受賞の知らせに土井理事長は「大変光栄なこと。地域や流域と連携した活動が評価されたのだと思う。多くの方々が活動に協力し支えてくださったおかげです」と感謝した。

日本河川協会は、「河川講習会の開催」「河川愛護思想の高揚と実践」「水防訓練の奨励」を3大事業に、地方公共団体、各都道府県の河川協会などが

一体となり、治水・利水政策の研究、河川の知識の普及、治水・利水事業の促進などに取り組む。23年度には内閣府から公益社団法人として認定を受け、不特定多数の利益の増進に寄与する公益事業を進めている。



佐々木恒春氏作「桜九曜紋透金三重唐草九曜紋縮子金像嵌鐔」(県総合博物館)



昭和61年に延岡市無形文化財／現代の名工

鐔師 故佐々木氏の作品展示

7月9日まで
県総合博物館

「現代の名工」で延岡市無形文化財保持者だった鐔(つば)師、故佐々木恒春氏の作品が、9日から県総合博物館(宮崎市神宮)2階歴史展示室に展示されている。日本

一とも言われた佐々木氏の、精緻で華麗な作品は希少価値が高いという。展示されているのは「桜九曜紋透金三重唐草九曜紋縮子金像嵌鐔(さくらくよしもんすかしき

んふたえからくさくようもんりんすきんぞうがんとつば)という金の鐔。九曜紋の全形の中に小さな桜花と九曜紋の透かしを入れ、表だけでなく裏、覆輪(側面)まで全面に、二重の唐草をはじめとする緻密な模様が刻まれている。

佐々木氏は大正14(1925)年生まれ。江戸時代に肥後国(熊本)で活躍した鐔師林又七の作

品を基に独学で腕を磨き、昭和61年に延岡市無形文化財(技能保持者)に指定された。

日本美術刀剣保存協会無鑑査、現代の名工として厚生労働大臣表彰も受け、平成9年に逝去。作品は世に60点ほどしか残っておらず、今回展示しているのは同博物館が所蔵する3点のうちの一つという。

歴史展示室では今後1

年間を通して県内の名工が残した刀をテーマにしたシリーズ作品展を計画しており、佐々木氏の同作品は7月9日まで展示。刀の展示後、秋には再び、楓(かえで)文様をあしらった佐々木氏の刀鐔を飾るという。

観覧無料。開館時間は午前9時～午後5時(入場は同4時30分まで)。毎週火曜休館(祝日の場合は翌日休館)。